

「消化性潰瘍（胃潰瘍、十二指腸潰瘍）」



わざわざ説明するまでもなく、「胃潰瘍」「十二指腸潰瘍」を併せて「消化性潰瘍」と呼びます。

違いとしては、十二指腸潰瘍は若者に多く胃潰瘍は中年以降に多い点が特徴です。

また、ヘリコバクター・ピロリ(Helicobacter pylori)保有者は、非保有者に比べてこの疾患の発症率が高い事が知られていますね。



胃や十二指腸はデリケートな臓器です。

そのため、肉体的、精神的ストレスや、アスピリン、インドメタシンなどの薬剤などによって、

胃の粘膜の血液循環が悪くなり、粘液・粘膜の働きが低下し潰瘍を引き起こします

症状は食事に関係する心窩部痛、いわゆる「みぞおち」の痛みが代表的です。

「胃潰瘍では夜間に多く」、食事をするといったんおさまるがしばらくするとまた起こることもあり

ます。「十二指腸潰瘍では空腹時が特に多い」ですね。

確定診断は、「腹部X P (レントゲン)」と「胃カメラ」です。



以前、名市大の「女医」さんで、「胃カメラの達人」と一緒に仕事をした事がありました。

「あっ！」と言う間に「喉元」を通りすぎて、食堂に「す〜っ〜」と挿入する「達人」でした。

彼女いわく…

「いつも、自分の口にカメラ(カメラと呼ぶ人だった)を入れて練習しているのよ」だって。。

やっぱり、ここでも「出てくる」。。。 **「砂糖」**

アルコールやカフェインは当然のことながら、消化性潰瘍を悪化させます。

それは、「胃酸」の分泌を増やすからです。

でも、「精製糖(砂糖)」も、「胃酸」の分泌を増やします。

日常の食生活において、「砂糖」の摂取が多いと「潰瘍」になりやすい！のです。

さらに、「アトピー性アレルギー」や「食物過敏症」の患者さんも、「消化性胃潰瘍」になりやすい。その患者に、特有の反応を起こす食品は、胃からの食物の排泄を遅くして、胃壁の膜を「むくませたり」「赤くさせたり」します。

その「反応」によって、「胃壁」が損傷し、「消化性潰瘍」に移行しやすいです。

特別に反応する、食物(例えば牛乳だったり、特定の肉だったり)を食生活で除去するだけで、急に、良くなるケースがあります。

ビタミンA

ある動物実験で、胃酸の過剰によって、十二指腸潰瘍が起きるのを、))))(ビタミンAが防いでいる事が、分かりました。

ビタミンC

血液、尿、胃酸の中に、ビタミンCが少なければ少ないほど、潰瘍のリスクは高まります。

他にも、あるけど。。

また今度。。